

# 2022年度グローバル地域文化学部 グローバル地域文化学の実践 募集要項

「グローバル地域文化学の実践」は、日本国内においてグローバル化する社会の様々な課題に向き合う経験を主体的に積む実践系の科目で、フィールドワークを行うクラスもあります。また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで、身近なグローバル・イシューについて英語で海外に発信できる力も身に着けることができます。

科 目	単 位 数	学 期	担 当 者	募 集 人 数	費 用
グローバル地域文化学の実践1 (水災で被災の記憶のまを歩く)	2単位	秋学期 (集中)	小野 文生 fono@mail.doshisha.ac.jp	約12名 (最少登録者数: 2名)	約6万円
グローバル地域文化学の実践2 (奄美で考える多様性と持続可能性)	2単位	春学期 (集中)	尹 慧瑛 hyoon@mail.doshisha.ac.jp	約20名 (最少登録者数: 5名)	約8万円
グローバル地域文化学の実践3 (子どもの権利とウェルビーイング)	2単位	春学期 (集中)	見原 礼子 rmihara@mail.doshisha.ac.jp	約20名 (最少登録者数: 5名)	約2万円
グローバル地域文化学の実践4 (多文化×映像フィールドワーク)	2単位	秋学期	王 柳蘭 rwangkan@mail.doshisha.ac.jp 直井 里予	約15名 (最少登録者数: 5名)	なし
グローバル地域文化学の実践5 (移住者支援とエンパワーメント)	2単位	春学期	石井 香江 kaishii@mail.doshisha.ac.jp	約20名 (最少登録者数: 3名)	なし

※費用は今後変更になる可能性があります。

★対 象： グローバル地域文化学部 2022年度以前生

★募集説明会： 1月19日(水)16時40分～ ZOOM開催

★募集期間： 2022年2月21日(月)～2月28日(月)  
追加受付期間→ 2022年3月2日(水)～3月8日(火)

★選 考： 2022年3月1日(火)～3月4日(金)  
追加申請者→ 2022年3月9日(水)～3月10日(木)

★問 合 せ 先： グローバル地域文化学部事務室(志高館1階)  
T E L: 075-251-2610  
E-mail: ji-grjm@mail.doshisha.ac.jp

## ★科目の取扱い

対 象	グローバル地域文化学部 2022 年度以前生
単 位 数	2 単位
単 位 の 取 扱	本科目の修得単位は選択科目 A 群に算入します。 また、本科目を履修後に「グローバル地域文化学の発信」を履修することで選択必修科目 B 群（スタディー・アプロード科目群）の単位を修得することができます。
開 講 年 度 ・ 学 期	グローバル地域文化学の実践 1：2022 年度 秋学期（集中） グローバル地域文化学の実践 2：2022 年度 春学期（集中） グローバル地域文化学の実践 3：2022 年度 春学期（集中） グローバル地域文化学の実践 4：2022 年度 秋学期 グローバル地域文化学の実践 5：2022 年度 春学期
登 録	大学にて一括登録を行います。（各自での登録手続は不要です）
成 績 付 与	グローバル地域文化学の実践 2 は、成績は春学期末に付与されませんので注意してください（「PEN：保留」となります）。秋学期末に通知します。
注 意 事 項	クラス決定後のキャンセルは基本的に認められませんので、十分検討した上で出願してください。 履修中止、および秋学期開始前の登録削除も原則認めません。

## ★募集説明会

日時：2022年1月19日（水） 16時40分～  
場所：ZOOM 開催

16:40～16:55	全体説明
16:55～17:35	【各クラスからの説明】 ①グローバル地域文化学の実践 1 ②グローバル地域文化学の実践 2 ③グローバル地域文化学の実践 3 ④グローバル地域文化学の実践 4 ⑤グローバル地域文化学の実践 5
17:35～18:10	【各クラスでの個別質問受付】

## ★個別相談

やむをえず説明会に出席できなかった場合の質問については、各担当者にメールで連絡してください。

## ★出願受付

### ■受付期間

2022年2月21日(月)～2月28日(月)

### ■追加受付期間

2022年3月2日(水)～3月8日(火)

【月～金 9:00～17:00 (11:30～12:30は除く)】

提出書類	所定の願書
願書提出先	グローバル地域文化学部事務室(志高館1階)
特記事項	各クラス併願が可能です。

## ★選考試験

### ■選考試験(面接)

2022年3月1日(火)～3月4日(金)

追加申請者は3月9日(水)～3月10日(木)

集合場所	志高館
集合時間	各担当者の指示に従ってください。
特記事項	新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、Zoom等での選考試験(面接)となる場合もあります。

## ★結果発表

### ■結果発表

2022年3月11日(金) 0時～

追加申請者は3月12日(土) 0時～

発表場所	DUETメッセージ
特記事項	出願者数の状況により第二希望以降のクラスに合格する場合があります。

# ★科目概要

科目名	<b>グローバル地域文化学の実践 1</b>
概要	南九州・不知火海周辺地域で起こった水俣病は、多くのひとにとって四大公害病として「しか」知られておらず、過去のできごとであり、遠い存在であるだろう。とはいえ、人生、家族、友人、地域社会、自然……理不尽にも、こうしたものをすべて台無しにされた受難。その受苦的経験に、どのように寄り添い、それをどのように理解し、またそれをどのように伝えてゆくことができるのか。この問いは、けっして過去のものではない。水俣病を事例として、そこに生きていた／生きているひとたちに出会い、向き合うなかで、厄災の経験と記憶の文化についての考えを深めるとともに、共生社会を構想するための課題を考察する。水俣病は、遠く、また近い。不知火海の美しい自然と人々の暮らしについて学びながら、グローバルと地域の関係性に思いを馳せつつ、〈過去と未来のあいだ〉にある水俣をフィールドワークする。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、秋学期金曜3講時に事前授業・事後授業を8回程度予定している。11月26日～11月29日でフィールドワークを行う予定である。

科目名	<b>グローバル地域文化学の実践 2</b>
概要	鹿児島市から南に約400km、沖縄にほど近い奄美大島は、固有種や絶滅危惧種が生息する生物多様性の島であるとともに、島に流れ着くゴミやハブの駆逐など、人と自然環境をめぐる諸課題を浮き彫りにする島でもある。また、琉球王国／鹿児島県／沖縄／アメリカによる支配と統治の歴史とともに、独特の言語や信仰を残しながら都会から遠く離れた日常を送る人びとがいる。こうした「グローバル」かつ「多文化」な 이슈が交錯する奄美への訪問を通して、「日本」のなかの多様性と出会い、持続可能な生き方を考える。
スケジュール	集中講義形式で実施する。春学期金曜2講時に事前授業(6回)を、9月初旬にフィールドワーク(3泊4日)を、9月中旬に事後授業(2回)を行う。

科目名	<b>グローバル地域文化学の実践 3</b>
概要	人権の分野で重要な役割を果たしてきた欧州評議会は、子どもの権利を保障するための取り組みも活発に展開してきた。これらは子どもの人権保障に向けたグローバルな歩みにも大きな影響力を与えてきた。本科目では、欧州評議会との連携のもとで、子どもの権利にかかわるプロジェクト活動に従事する機会を得ながら、子どもの権利保障をめぐる歴史や理念と現実を掘り下げて学ぶ。具体的なテーマとしては、子どもの性搾取・性虐待をめぐる問題に焦点を当て、性虐待防止を目的とした絵本教材の日本語翻訳ならびに出版を行う。さらに、プロジェクト活動の成果をふまえて国内でのアウトリーチ活動にも参画する。
スケジュール	集中講義形式で実施する。ただし、春学期木曜2講時に事前授業を7回程度予定している。国内アウトリーチ活動の実施は7月末～8月上旬の週末を予定している。実施日は活動先と調整の上、4月上旬までに決定する。

科目名	<b>グローバル地域文化学の実践 4</b>
概要	<p>グローバル化とデジタル化が進む社会のなかで、私たちの暮らしは、多種多様な価値観が混沌とし交錯する一方で、パッケージ化された文化や知識、メディアによってつくられた他者のイメージに囲まれています。本科目では、自文化と異文化といったボーダーを乗り越えるべく、「多文化な日常」をキーワードに、受講生が文化の担い手や人と人をめぐる多様な関係性の中に参与しながら、異文化の日常を経験し、そこで見えてきた課題をもちよつつ、映像による多様な解釈と表現の可能性を探ります。具体的には、在日外国人を含め、暮らしの中に息づいたさまざまな文化や価値観、(食、宗教、言語、ジェンダー等) や人との関係性(つながり、サークルや自助グループ等) について、映像フィールドワークの手法を用いて、動的かつ複眼的に捉えることによって、固定化した文化や他者のイメージを乗り越え、日常の中から多文化共生を考えていくことにあります。</p>
スケジュール	秋学期金曜3講時

科目名	<b>グローバル地域文化学の実践 5</b>
概要	<p>コロナ禍で緊急支援が始まると同時に地域の福祉事務所や役所に普段見慣れぬ多くの外国籍の住民が訪れるようになったと言われています。普段はコミュニティ内で生活上のニーズの解決を図っていることがその背景にありますが、日本社会との交流を求めている人々も少なくはありません。しかし、その接点の一つである日本語教室に仕事上の理由だけでなく、小さな子どもの存在や宗教上の理由でアクセスは困難です。こうした人々が地域と繋がるための〈場〉を創出し、相互理解や交流を深めることに加え、彼・彼女らの経験を生かす機会を作れないでしょうか。本科目で、日独の移住者の状況や支援活動を比較しつつ、移住者のエンパワーメントの方途について考案・実現してみませんか？</p>
スケジュール	春学期木曜2講時